

1987 年度上半期報告書

一橋大学山岳部

目次

》合宿編	ページ(原本の頁)
新入生歓迎山行	2
雪上訓練合宿	3
三ツ峠岩登り合宿	5
夏山合宿	6
秋山下級生合宿	12
》文登研	5
》個人山行編	14
尾瀬山スキー	15
海谷	16
仁寿峰(韓国)	20

(電子化註)

- 1) 英数字は半角で統一(但し、地名、固有名詞の英数字は全角)
- 2) 平ヶ岳、駒ヶ岳 → 平ヶ岳、駒ヶ岳に統一
- 3) 取り着き、取り付きは取り付きに統一
- 4) 登攀、登はんは登攀とした。
- 5) 天気記号は○(快晴)、◎(曇)、●(雨)以外は漢字名に変換した。
- 6) 不明文字は*(全角)、*(半角)とし、背景を濃桃色とした。
- 7) 電子化作業にて挿入した文章は斜線とした。

1. 新入生歓迎山行

'87 4. 28~29 奥多摩・雲取山~鷹ノ巣山

(ルート概念図省略)

(交通)

JR・立川駅== (青梅線) == 奥多摩駅.....(バス).....雲取山登山口

(記事)

新入生をまじえた十数名。登山口ではさわやかな晴天であったが、次第に空は曇って来た。バランスを欠いたメンバー構成だったせいか、先頭としんがりとの差は開くばかり。ついには完全にパーティーが2分してしまった。新入生、2年生を中心とした若者組は先へ先へと雲取山頂を目指し、上級生・女性主体の熟年組は縦走路へ出ると右折してさっさとテン場へ向かってしまった。薄暮の中を若者組は遅れて鷹ノ巣山避難小屋へ。おたがい疲れてぐったりしていたが、その夜への期待からその眼は奥多摩の冷々した闇の中にランランと光るのであった。(ホソノ記)

参加メンバー(部員)外池、河野、小野、井上、細野、山内、川名
(部員外)長澤、川内、近藤、猪飼、池田

2. 雪上訓練合宿 北岳大樺沢定着 (縦走)～甲斐駒～鋸岳

5/24～29

メンバー 斎藤・外池・河野・小野・井上・細野・山内

5/24 甲府駅泊 6:00―夜叉神 7:10～広河原 11:30～二 * 手前左岸 TS.13:00

(雪訓 14:00～15:50)

25 起床 4:00～B.C.発～取付手前 6:20

A 隊(斎藤・小野・井上) dガリー奥壁

B 隊(外池・河野・細野・山内) ピラミッドフェース下部～四尾根

登攀開始 7:00～横断バンド 10:00～四尾根第二コル 13:15～北岳頂上 15:40

～御池 17:00～B.C.17:25

岩登り優先でバットレスへ。B 隊は取付できザイルをラントクルフトの奥深くに落としてしまい、4 人 1 パーティーとなる。ピラミッドフェース完登をあきらめて四尾根へ。

26 起床 3:30～B.C.発 4:25～取付手前 5:40

A 隊 ピラミッドフェース～四尾根

B 隊 dガリー奥壁

登攀開始 6:00～d ガリー取付付近 7:30～城砦ハング 9:50～ハング上 10:40

～北岳 11:25～草スベリ 12:00～(雪訓～13:40)～御池 14:00～B.C.14:20

午後から天候が崩れそうなので、上部フランケー本にしぼって登攀を開始したが取付を見逃して、dガリー奥壁のブッシュ混じりのフェースの登攀を強いられる。面白みのない登攀に終始した空虚さを埋めるべく、帰途、雪訓をする。

27 起床 6:00～B.C.発 7:15―雪訓～9:50ピッケルストップ～11:50 スタカット・ポラード搬送
～B.C.14:00

後まわしになっていた雪訓をするが、新人がいないので全く盛り上がらない。

28 起床 4:00～T.S.発 5:40～広河原 6:20～北沢峠 9:15～駒津嶺 11:50～甲斐駒 13:20
～六合石室T.S.15:00

29 起床 4:30～T.S.発 5:45～熊穴沢ノ頭 6:35～第二高点 7:45～鹿ノ窓 8:50～第一高点 10:00
～角兵衛沢出合 12:15～戸台 15:20 タクシー 伊奈市駅

教育実習のため下山する斎藤と別れ、単調な林道を北沢峠へ。甲斐駒山頂は天気も良く快適。鋸岳への尾根は仲々険しい。鹿ノ窓へのガリーは、踏むそばから岩がくずれて危ない。続く小ギャップからの登りには慎重を期してザイルを出す。角兵衛沢はひどいガレ沢で閉口する。下山した戸台はさびれる一方だ。

(河野 記)

(ルート概念図省略)

バットレス登攀隊A隊(斎藤L、小野、井上)

5/25 ◎ (5尾根支稜～dガリー奥壁) 4級上・V,A1

4尾根からの継続を計画していたが、天候が不順だったので、5尾根支稜から取付く。

9時頃、dガリー奥壁基部へ。1ピッチ目のハングは思ったより快適で空中に身を乗り出すのが爽快だった。広々としたスラブを3P登った後、チムニーをバック・アンド・フットで登り登はん終了(12時頃)

5/26 ◎ (ピラミッドフェース～四尾根) 4級上・V ← 4尾根を修正

5:20B.C.発～6:50ピラミッドフェース取付～7:35登はん開始～11:10四尾根取付～

3:10登はん終了～4:00北岳～5:30B.C.

どんよりした空模様にひやひやしながらの登はん。ピラミッドフェースは横断バンドに出るまでルートを間違え、ブッシュに入ってしまった。上部の2Pの核心部はすっきりした好ルートで、天気が良ければ、さぞ快適だったと思われる。4尾根を登って北岳へ。

(文責 斎藤)

3. << 三ツ峠岩登り合宿 >>

6/26(◎)、27(◎)、28(◎)、29(●) in 三ツ峠

参加メンバー 斎藤、外池、河野、小野、井上、細野、山内、内藤

特別参加者 鮎沢、川名、九野、山浦

例年のように梅雨の晴れ間をついての岩登りは、最終日は雨にたたられてしまい残念であった。救助訓練の手際がよくなく、遭難に対する意識の薄れを反省させられるものでもあった。また、新入生の内藤にとっては初めての合宿であった。

救助訓練内容:ボディ・ビレイ、自己脱出、自傷者の搬出、滑車など。

4. << 文登研春山研修会 >>

5/13～19 場所 文部省登山研修所、剣岳周辺

参加者メンバー 井上、細野

13日 開会式、講義、実習

14日 講義、ディスカッション、買い出し

15日 入山(立山駅—美女平—室堂—剣沢)

16日 実技(歩行技術 滑落停止、耐風姿勢)研究討議

17日 実技(確保技術(スタンディング・アックス・ビレイ)、搬送(雨のため室内で))、班別研究

18日 本峰アタック(我々は長次郎—源次郎—本峰—平蔵)、研究討議

19日 下山、閉所式

井上は1班(近藤邦彦師)、細野は3班(植木一光師)に参加し、それぞれ知識、技術の習得、見直しを行った。二人とも最初から積極的であり、疑問点や自分達の意見は余さず披露した。大変有意義なものであった。

(感想)上記のとおり、大変有意義であり、完璧な技術や道具というものができあがっているわけではなく、個人差があるなど、応用の効くことを覚えられた。最終日、雷鳥沢で遭難者の遺体搬送を手伝った。

忘れられないのは本峰アタックの日。内蔵助を下りて剣沢よりスタカットでテント場まで戻った。疲れた身体に講師のバ声。9P程の登はんは何んと2時間を費やし、テントに駆け込んだ時はメシを作る元気もなくなっていた。昔より楽になったらしいけれど、内容はかなりHARD。まず、別山の上部から逆さまで落ちてくると度胸がつかず。(細野)

5. 夏合宿前半定着(湊沢 8/4~/14)

(天気図省略)

8/4 バスターミナル 7:06◎ 湊沢 14:30●

新入部員・内藤、高橋をむかえての初めての本格的な合宿だ。重荷をかつぐのが初めてだけあって湊沢へつくころは2人ともバテバテだったようだ。

8/5 3:06○ポール1本折れる。 9:50● 1045~14:25 ●雪上訓練 14:55●湊沢

明け方近くに強風のため片方のテントのポールが折れ、フライまでが破けてしまう。初日から天候が悪く新入部員にはかわいそうであったが雪上訓練をやる。この日は雪上での歩行訓練に多くの時間をついやす。そして最後近くに確保の実地訓練を行なう。

8/6 4尾根隊(外池・河野・山内)と雪訓練隊(斎藤・井上・細野・高橋・内藤)に分かれる。以下4尾根隊の記録。(4尾根事故は別の報告書にくわしく述べます)

5:10 ○ start 7:55 ◎ 松波岩 9:20 ◎ スノーコル 9:40 晴 4尾根登攀開始
10:00 晴 Bカンテ前 12:00 晴 Cカンテ 14:20 晴 Dカンテ前 15:35 ◎ 登攀終了
17:45 晴 湊沢

この日は好天に恵まれたので、予定通り雪訓練隊と4尾根隊に分かれる。松波岩をすぎてからC沢を下って4尾根取り付き行くわけだが、予想通りC沢は大変ガレガレしており、スノーコルまで約1時間半ついやす。3人が交互にリードをしながら登攀する。落石多発地帯が多く快適な登りとは言えない。Dカンテのとき、セカンド(山内)が落ち、リード(外池)との相互の意思疎通が出来てなかったために、外池が指にけがをする。

8/7 小縦走B隊(河野・細野・山内・内藤)と岩登り隊(その他)に分かれる。

以下、小縦走隊の記録。横尾本谷~槍沢~水俣乗越~天井沢

5:25 晴 start 6:12 晴 口リ橋 7:22 晴 二俣 10:00 ◎ 東尾根 11:07 ◎ 槍沢
13:20 晴 水俣乗越 16:00 ◎ 出合(北鎌沢・天井沢)

外池の前日のケガにため予定を変更し、彼には休養をもうけてB隊の小縦走を前にもってくる。内藤は前日の後遺症とおもわれる脛の痛みにも耐え、この日はがんばる。痛みが始まったのは横尾本谷。晴天に恵まれ、アップダウンにもめげずに予定をこなす。

8/8 天井沢～北鎌～槍～殺生ヶ原 (小縦走)

4:50 ◎ start 7:04 晴 北鎌尾根 8:07 晴 2749m 天狗の腰かけ

9:22 ● 天候が悪化し、視界が悪くなる。 15:00 ● 槍 16:45 ● 殺生ヶ原 stop

天気図により天候が悪化することが明らかに予想されたので早めに行くということで出発。だが結局1年生のペースで終始一貫する。当然。北鎌、天狗の腰かけ付近から天気が悪くなり、ガスにつつまれ視界が悪くなる。途中、遭難パーティーから肩の小屋への伝言をたのまれる。槍がかなり近くなっていたころ稜線通しに進まなかったため、180° 進行方向をかえてもとの場所にもどるということをしてしまった。肩の小屋近くはものすごい風。

8/9 殺生ヶ原～槍沢～横尾～涸沢 (小縦走)

6:20 ◎ start 10:07 ◎ 横尾 12:50 ◎ 涸沢

天候が回復傾向にあることはわかっていたが、朝いまだ雨だったので横尾まわりで帰ることにする。槍沢ヒュッテあたりで雨はあがる。

8/10 B隊(外池・河野・細野・山内・内藤)は飛驒尾根へ。

4:30 ○ start 6:10 ○ 奥穂高山荘 6:50 ○ 奥穂 9:20 取り付き点

12:15 ○ ジャンダルム 15:24 ○ 涸沢

この日はすばらしい晴天だった。ザイルを使用したのは下降時に1度懸垂をした時と、飛驒尾根の最後の1ピッチの2回だけ。1年の内藤も快適に登攀出来、まずまず。尾根最後のピッチは2年生の細野、山内がリード。快適な1日でした。

8/11 B隊(but内藤)は松高ルートへ。

4:45 ○ start 5:35 ○ 5・6ノコル 7:10 晴 取り付き点 7:30 晴 登攀開始

10:17 ◎ 河野・山内終了 11:00 ◎ 外池・細野終了 12:12 晴 3峰

12:24 ○ 前穂 13:30 ○ 奥穂 14:06 ○ 涸沢

この日、内藤は連日の疲れがたまったせいか動けないというので、休養させる。松高ルートでは取り付き点を間違えそうになったが、幸いにも後続のパーティーのかたが正しい取り付き点を教えてくれたので正規のルートを登攀出来た。組み合わせは河野・山内と外池・細野とする。途中1ヶ所エーゼルをして登るところがあるが素直にエーゼルをして通過。私の印象では、その上の方が難しかった。順調に松高ルートをこなし、北尾根、前穂、奥穂へと進む。奥穂ではちょうど小縦走途中のA隊と合流。

8/12 屏風岩 東稜隊(外池・井上・山内)

4:35 ○ 横尾谷河原start 8:11 ○ 東稜取り付き 8:30 ○ T2 9:00 ○ 登攀開始

15:36 ◎ 登攀終了 18:00 ◎ 涸沢

前夜のうちに横尾谷岩小屋付近まで下り、ビバークする。とにかく取り付きまで行くのに時間がかかった。尾根状の所を行かずにルンゼからまわったためだ。人より余計に3ピッチ。東稜

では全 6 ピッチを 3 で割り、井上・外池・山内という順で 2 つずつ割り当てた。高度感あふれる非常にスリルのある思い出残る登攀でした。かなり時間がかかりましたが。

8/13 外池・井上・山内・高橋・内藤・の 5 名はドーム中央へ。

5:00 晴 start 8:30 ◎ 登攀開始 12:30 ◎ 登攀終了 14:15 晴 涸沢

取り付きについて、いざ登ろうとしたところ、名クライマー長谷川氏がやってきた。せき止めるのもあまりにも悪いので先に行ってもらおう。登り方を眺めてりとする。我々の組み合わせは外池・高橋と井上・山内・内藤。内藤・高橋は多少時間がかかったが、当然、まずは難なくクリア。最終登攀日は無事に終了。

8/14 下山

記録全くなし！ アレ？

Member 4 斎藤・外池・河野

3 ※ ※3 年の小野は直前にけがをしたために今回参加せず。

2 井上・細野・山内

1 内藤・高橋

夏合宿A隊(斎藤・井上・高橋) (文責 斎藤)

8/7(金) 晴→◎ (北条新村ルート 4 級下 IV・A1)

5:20 涸沢発 6:30 5・6の科尔 8:25 C沢上テラス 9:20 取付 11:10 ハイマツテラス
3:00 登攀終了 3:40 4峰 5:40 B.C.

松高ルートへ行く予定だったが、取付を間違え、北条・新村ルートへ行ってしまった。1P 目で気付いたが、松高ルートは人が詰まっていたこと、北条・新村ルートもかつて斎藤がトレースしたことがあることから最悪の場合の撤退も考えた上でそのまま北条・新村ルートに行くことにする。1 年生高橋には荷の重い、実力以上の登攀であったことをリーダーとして反省したい。

IVA1 の核心部は高橋をミッテルとして、ラストの斎藤がアブミの回収や腰の持ち上げのサポートを施し、3 時間余りの格闘の末、突破した。おりしも黒雲が広がり始め、ひや汗の登攀だった。帰路、3・4の科尔から雪渓を下ったが、雪に不慣れな高橋にとって、恐怖心が高まったようで時間をとってしまった。

8/8(土) ◎ 強風小雨 (北尾根)

5:20 涸沢発 6:15 5・6の科尔 7:00 5峰 7:40 3・4の科尔 9:05~40 前穂
11:20~40 奥穂 1:30 B.C.

北尾根の後、T1フランケを登る予定を立てたが、強風と北尾根で手間取り、T1フランケはカットした。B.C.から5・6の科尔までは、昨日より 15 分短縮でき、ひと安心。3峰の登りは、冬に来ることを考えるとなかなか手ごわそうだった。

8/9(日) ● 梅雨前線通過(ラジオは確かにそう告げていた)

小縦走に向け 3 時に起床したが悪天のため沈。

8/10(月) 晴 小縦走初日 (明神東稜)

4:20 B.C 発 5:10~30 5・6のコル 6:35~45 奥又白池 7:25~35 下又白谷
 9:30~40 東稜上 10:45~50 ラクダのコブ基部 12:50~1:00 明神主峰
 2:15~30 前穂 4:00 岳沢 5:20 帰幕終了(コブ沢上部)

下又白谷から東稜に出るまでブッシュを手がかりとした急登に苦しめられた。

8/11(火) ○ (豊岩中央ルンゼ) 小縦走 2 日目

5:30 発 5:30 豊岩中央ルンゼ取付 7:25~35 ピナクル下 9:00~15 ピナクル上
 10:55~11:10 豊岩尾根上 12:00~20 コブの頭 1:25~2:05 奥穂 3:15 B.C.

「足の裏の皮が一方に寄ってしまう」という表現がいかにもピッタリの豊岩であった。好天に恵まれ爽快なスラブ登りとなった。ピナクル裏手のルンゼは岩がもろくヒヤヒヤさせられた。我々はルートを右上スラブに取って登攀を終えたが、そのまま奥壁へとつなげれば、より充実した登攀となろう。奥穂頂上で松高ルートへ行っていた外池らと出会い握手を交わす。

8/12(水) ○ 北穂東稜～ジャンダルムT1フランケ

5:05 発 5:55~6:05 北穂のコル 7:25~40 北穂 9:05~15 穂高岳山荘
 10:30~11:00 T1フランケ s. ケ取付 11:00 登攀開始 2:40 登攀終了 5:15 B.C.

日程も押し迫ってきて変則的なルートとなった。北穂東稜は何度来ても快適な岩遊びを満喫させてくれる。北穂からT1フランケまでのアプローチが予想以上に長く、一昨年、このルートで雷に出会った経験からヒヤヒヤさせられたが、なんとか天気もってくれた。

6. 夏合宿後半縦走 ————— 北海道・十勝岳～大雪山 —————

8月18日～25日 (アプローチは含まず)

18日 晴 == (タクシー) == 原始ヶ原登山口 T.S.

19日 晴 T.S.——富良野岳——上ホロカメウツク山——上ホロ小屋

20日 ◎ 上ホロ小屋.——十勝岳——美瑛岳——オプタテシケ山——双子池 T.S.

21日 ● T.S.——コスヌプリ——トムラウシ山——ヒサゴ沼避難小屋

22日 ● ヒサゴ沼避難小屋——小化雲岳——天人峡温泉 T.S.

23日 ◎ T.S.——(クワウンナイ川遡行)——源頭付近 T.S.

24日 ● T.S.——化雲岳——忠別岳——白雲避難小屋 T.S.

25日 ○ T.S.——間宮岳——旭岳往復——黒岳——層雲峡下山

Member: 小野、井上、細野、池田

お花畑と日本離れした光景が続く北海道の山々は新鮮であった。しかし、今年は例年になく天候が不順で霧に中ばかり歩いていたのは残念。今回の山行で特筆すべきはクワウンナイ川遡行であろう。前日来、気圧の谷に入り、行くべきか否かの判断に苦しむが結局出発。増水のためか、二俣までのコースタイムが大きくふくれあがるが、心配された滝ノ瀬十三丁の増水はたいしたことなく幸運であった。他は技術的に困難なところなし。今回特別参加してくれた池田さんがんばっ

て全行程を走破、ごくろうさま。

なお、クマ対策には、笛を吹きながら歩くのが効果的。爆竹も必携だが、クマの面前で使用して威嚇する結果になるとかえって危険なので、使用にあたっては慎重にすること。

7. 中央アルプス 大平 — 安平路 — 空木 — 木曾駒ヶ岳

9/20 21 22 23 小野、細野、高橋、内藤

9/20 8:55 大平峠発 ~ 5:20 県民の森(大平)T.S.

大平峠から 1P 行った所で尾根に出る。尾根上のヤブに行くか、山道に沿って下っていくか相談し、細野が少しヤブの中へ入る。小野のいう“廃道寸前の道”などないという事で山道を下る。

しかし 30 分ぐらい行った所で完全に違いとわかり戻る。そしてヤブの中へ。3P 程ヤブこぎを続け現状位置を確認した結果、とても 1 日で抜けられそうにないとわかり引き返す。4:40 ヤブから脱出。ヤブは廃道寸前などではなく、道など全然なかった。山道を下り 5:20 県民の森に着く。内藤がテントのポールを忘れたので、あずまやでテントをつるす。今日は結局ほとんど進まなかった。

9/21 晴 6:10 県民の森発——10:45 摺古木山——2:10 安平路山——4:45 安平路避難小屋

今日は黒川沿いの林道から摺古木山に入る事にする。摺古木山頂までは快適な道が続いたが、山頂をこえたあたりからまたもやヤブの中に入る。この結果ペースが上がらず、越百山まで行こうともくろみはあつけなく崩れた。

9/22 晴 5:30 安平路避難小屋発——8:00 奥念丈——10:35 越百山頂——1:20 南駒ヶ岳——
3:25 駒峰ヒュッテ

奥念丈まではまたヤブに悩まされる。それ以後はアルプ斯的地形となりピッチが上がる。今晚明日の水をどう確保するかが問題であったが、幸い駒峰ヒュッテに雨水がためてあり、それを使わせていただく。

9/23 晴 5:55 駒峰ヒュッテ発——6:00 空木岳——8:50 熊沢岳——10:05 檜尾岳——
2:00 宝剣岳——2:42 木曾駒山頂——3:40 千畳敷山荘

今日は木曾駒山頂から歩いて下る予定であったが、思った程ペースが上がらずロープウェイで下ることになった。ロープウェイからもし 1 日のロスがなければ登るはずであった沢を見おろしたが 1 日のロスがあつてよかったと思った。

8. 丹沢・源次郎沢から東丹沢主脈～石老山・相模湖

4/11、12 メンバー 河野(単独)

4/11 ◎ 小田急渋谷 9:15=(バス)=9:35 大倉～11:00 源次郎沢出合～11:30 F10～
12:50 花立～13:55 丹沢山～15:50 原小屋平 T.S

4/12 雪◎ 5:30 起床～6:45T.S.発～7:45 焼山～8:30 西野々～9:35 石砂山～10:55 石老山～

相模湖駅

源次郎は水量が少なく、時期が早いこともあって生気に欠けていた。登攀は易しい。稜線に出てもガスっていて展望がきかない。見るべきものがないのでひたすら歩く。蛭ヶ岳では、野生鹿に弁当をとられそうになった。小屋跡で幕営。翌日は思いがけず雪(みぞれ)。チンタラと朝食を撮って重い腰をあげる。石老山は天気が良ければ、富士・南ア・丹沢の格好の展望台になりそうだ。

9. G・W山行 木曾駒ヶ岳

5/1 夜行～3 メンバー 齋藤、引地 OB

5/2 晴→◎ 「聖職の碑」コースを通して木曾駒を目指したが、齋藤の体調が悪いため西駒山荘どまりとなった。夜半より中耳炎の症状を示し始め苦しみ抜いた。当初、摺古木山までの全山縦走を計画していたが予定を変更し、明日引き返すことにした。

5/3 ◎→晴 天候が朝回復すると引地 OB はさっそく木曾駒往復に出かけた。齋藤の耳鳴りはその間に大分おさまり、引地 OB が戻って話しあった結果、木曾駒を通して千畳敷からロープウェイで下山することにした。引地 OB には3度同じルートを登降させてしまい、どうもすみませんでした。下山後、伊那に赴き、石川夫妻にごちそうになり、楽しい夜を過ごさせていただきました。

10. 尾瀬山スキー (銀山平——鷹の巣——平ヶ岳——山ノ鼻——鳩待峠)

5月2日～4日 member 小野、山内

2日: 浦佐===銀山平(7:25)—(国道)—T.S.(17:30)

3日: T.S.(5:15)——鷹の巣——平ヶ岳登山口(8:00)——下台倉山(10:52)
——平ヶ岳頂上手前(14:30)T.S.

4日: T.S.(5:50)——大白沢山(10:18)——山ノ鼻(13:45)——鳩待峠下山(15:00)

2日 銀山平から鷹ノ巣まで延々30kmの道路歩き。これは事前の下調べが不十分だったことが原因。国道とはいえ、除雪は全くなされていないし、何と渡渉まであった。要所要所ではスキーを使うが、雪と路面が交互に出て難渋する。銀山平から22km(推定)地点で幕営。

3日 鷹の巣付近でにわか雨にあうが後曇り。下台倉山付近までは雪なく、重いスキーを背負っての急登。下台倉付近からスキーをつける。台倉山から池ノ岳手前までは快適なシール登行。池ノ岳直下は40°近い斜面で、ほぼシール登行の限界であろう。池ノ岳付近で暴風雨になり視界も悪化。池ノ平中間点あたりで幕営。

4日 天候は回復。視界も良好。30分ほどで平ヶ岳頂上に達する。頂上直下はクラストしている。その後、大白沢山までの稜線は絶好の山スキールート。快適なアップダウンを繰り返す。大白沢山からはいよいよシールを外しての滑降。猫又川左俣沿いに行くのが正規ルートらしいが、我々はそれを外してはまる。下部ではブッシュが出ており苦勞する。

二俣付近からはほとんど斜度がなくなる。13:45 山ノ鼻到着。ここはテント村が出現するほどの大盛況。結局、至仏山、燧ヶ岳というはじめの計画を大幅縮小し、鳩待峠に下山。

[総括]

- ・ザックを背負って滑ることがいかに難しいかを体験する。ザックはバランスのよいものを用い、極力、軽量化すべきである。
- ・小野がモヘアシールを、山内がナイロンシールを使用した。価格はモヘアシールがわずかに高いが、性能の点では、特に下りにおいてモヘアシールが有利であることが実証された。

11. 海谷西山稜～雨飾山～焼山

5月3～5日 メンバー 河野(単独)

- 2 ○→◎ 前夜発 = = 糸魚川 7:06 = (バス) = 来海沢 7:40～御前山～山境峠～
駒ヶ岳 12:30～鬼ヶ面山～鋸——鬼ヶ面間(鬼ヶ面の次の小ピーク 15:40T.S.
- 3 ◎→雪 T.S. 8:50～鋸～大曲り～笹平 15:50T.S
4. ○→雪 T.S. 6:30(≒雨飾山) 7:30～大曲り～茂倉峰～金山 12:00 T.S 12:20～
焼山～16:00T.S
- 5 晴 T.S. 7:30～天狗原山～小谷 10:50 = (バス) = 南小谷.

海谷の山稜は予想以上に陰しく、岩・雪・ブッシュの三位一体攻撃には苦しめられた。駒ヶ岳の急登・鬼ヶ面山・キレット、……と緊張する難場が随所にある。2日目はガスもかかってルートファインディングに苦勞した。3日目は思わず小躍りしたくなるほどの好天で、念願の雨飾山登頂を果たす。明星山・後立山・戸隠・焼山・海谷ー日本海・・の360度の展望は格別である。前日の雪でラッセルもきついが、何しろ好天！心も軽く焼山まで足を伸ばす。焼山は所々蒸気を噴き出しており、「地球は生きている！」などと改めて実感する。

翌日は軽く下山と思いきや、下部の尾根はほとんどヤブで最後まで苦しめられる。ついでに言えば毎晩冷え込みが厳しく寒さに苦しめられた。以上、苦しめられればなしの山行であったが、山中で摘んだギョウジャニンニクのカレーは美味しかったし、何より小谷で入った露天風呂は実に良かった。かくして、「つらい思い出と疲労」をお湯に流して快い思い出を胸に無事帰京したのであります。(完)

P.S. 海谷は絶対イゾー

(ルート概念図省略)

12. << 唐沢岳幕岩 >> G. W.

5月2～5日 メンバー 鮎沢 井上

- 2日 5:45 七倉(晴)ー6:30 南沢出合(晴)ー8:20 大町の宿(晴)9:00ー9:25 大凹角ルート スタート
ー13:20 右稜の頭◎13:45ー16:20 取付ー16:35 大町の宿

大凹角ルートは大凹角沢といわれるだけあってザイルなどがビショヌレになった。下りの懸垂下降ではエイト環にすれてザイルが泥水のしぶきをあげ、二人とも泥だらけになる。懸垂下降時にザイルが枝にからまりもたつきがあったが無事終了。

3日 沈 ●～◎ 大町の宿 幕岩ノートに色々なことを書きつづる。

4日 6:35 大町の宿出発○ー7:05 中央カンテ畠山ルート スタート○ー10:15 3P 終了点より**
ー11:00 取付ー11:10 大町の宿 11:35ー12:45 D沢のコル(晴)ー14:20 唐沢岳 14:50ー
15:50 D沢のコル(晴)ー16:30 大町の宿

中央カンテ畠山ルートは昨日の雨から所々ベルグラで覆われ、3P終了後難儀。アイゼンに履きかえるようなテラスもなく敗退。懸垂下降。時間があき唐沢岳へ登る。頂上からのパノラマは素晴らしく、いつまでもいたくなる。下りでは完治していない足が痛み鮎沢のペースは落ちる。

5日 7:45 大町の宿出発(晴)ー7:30～唐沢出合◎

<感想> 本格的な岩登りをしたという実感があつた。鮎沢氏のペースが上記のような理由であらなかつたのが幾分幸いであつた(体力差。技術差がcoverされる)。唐沢ノートは面白かつた。個人的な思いを書きつづる。鮎沢氏にとっては足のケガ以来、山から遠ざかっていたので復帰の第一戦であつたと思われる。(井上)

13. 白根三山縦走 池山吊尾根～北岳～農鳥岳～大門沢

5月3～6日 メンバー 川名 細野

5/3 ● 降りしきる雨の中、夜叉神より徒歩で池山吊尾根取り付きへ。ササヤブの中を3時間の**で御池に着く。小屋は無人で荒れ放題。その左手を進んでいる内に路を失い、樹林帯を無理矢理登る。尾根上に出て幕営。

5/4 ○ 打って変わった快晴お中、北岳を目指す。林の中は雪が凍っていてアイゼン着用、森林限界を過ぎるとポーコンの頭に着く。ここから北岳へ続く道が見渡せる。凍った八本歯を慎重に通過。強い陽を受けながら北岳へひたすら登る。頂上では**して大展望が得られた。そこから北岳山荘まで稜線通しの道は斜面がクラストしておりかなり危ない。少し早いはその日は山荘の冬期小屋に入る。

5/5 ○ 初めに1ピッチで間の岳へ。右手に塩見岳の眺めが素晴らしい。農鳥小屋を経てクラストした農鳥岳の登り。稜線へ出るとここは西側のカールからの吹き上げがすさまじい。そそくさと西農鳥を踏んで大門沢下**に。大門沢はこの時期、南面の雪が腐っていやらしい。やがて樹林帯の中の道にかわって大間小屋に至る。そこから2時間で**に。バスの待ち時間で温泉に浸かり、一路身延を目指す。(記 細野)

(ルート概念図省略)

14. 丹沢水無川本谷遡行

6月13日 メンバー 小野(単独)

小田急渋谷駅=(バス10分)=大倉(8:00)—(林道)—出合(9:40)——塔ノ岳(12:22)

—(大倉尾根)—大倉(14:01)

技術的な困難なところがない。高巻きをするところはかなりしっかりした鎖がつけられているし、9つの滝には「本谷F0」と大きく表示してある。人工的に“整備された”沢である。ツメもたいしたヤブこぎもルートファインディングもなく、頂上直下へ飛び出す。入門用に最適。

15. 川浦谷本谷

9月31日 メンバー 斎藤、外池

秩父の外池宅をベースに武甲山幕岩を登るべく張り切って出かけたが、何と外池の父上から既に削り取られてしまったことを聞く。幕岩はセメントの原料となってしまった。仕方なく沢登りに変更。途中から雨となって林道へエスケープしたが、1級とはいえ、なかなか手ごたえのある沢であった。

16. << 韓国の山～雪岳山、仁寿峰、ブチェ岩 >>

メンバー : 井上(2年生)

(ルート概念図省略)

9/13～15 雪岳山(ソラクサン)

東草—(バス)—登山口——千仏洞溪谷——大青峰(泊)——五色温泉(下山)

9/19～21 仁寿峰(インスホン) ← インスホン?

ボルト・ルート、西面スラブ・ルート、ピラA・ルート、仁寿Bルート、
シュイサードB・ルート

9/23 釜山 ブチェ岩(ゲレンデ)

観光と登山の目的を持って韓国へ行く。SEOUL 在住の友人の家にお世話になり、パートナーを探してもらうがなかなか見つからず、まず雪岳山へ山登りにゆく。

雪岳山では蔚山岩という立派な岩もあったが、パートナーがいない悲しさ、歩いて頂上にゆくルートを登っただけである。雪岳山では、ひとりでゆっくり楽しく登る途中で、Mr.ジンというバリバリのクライマー(来年ヒマラヤのタンブル峰へゆくとか)に出会い、彼と共に行動することになる。頂上の大青峰には夕刻に着き、二人とも小屋泊する。翌日一緒に下山し、登山での再会を約束する。

SEOUL にもどってもまだパートナーは見つかっておらず、単身、クライミング・ジャーナルに載っていた李永九氏の経営する店に行くと、氏はあっさりパートナーを紹介してくれた。もっともっと早く行けばよかった。パートナーは氏の経営する山小屋、白雲山荘で働いている Mr.キムで、彼に色々連れて行ってもらった。人の多い日曜日と重なったことや、雨が降ったこと、Mr.キムの体の不調などもあり、十分な登攀ができなかったのは残念であったがゲレンデ気分に登れる仁寿峰は

久々の岩登りとあって楽しいものであった。この岩の印象としては、第 1 に花崗岩の大スラブであること、第 2 にピンが少ないこと。スラブに慣れた韓国クライマーは走るようにスラブを登ってゆく。また、ピンが少ないのは難しいルートになるとやはりコワイと思う。GRJという日本人クライマーの集団とも会う。彼らは皆 5.10～12 を登るハードフリー・クライマーで圧倒された。釜山では雪倉山で会ったクライマーの所属する集団に会い、翌日、その若手メンバー Mr. リーらに連れられて釜山で 1 番人の来るゲレンデゆく。初めてジャミングらしいジャミングを体験した。色々な友人ができた韓国での登山だったが、もっと身体をベストコンディションにビルドアップしてから行ったらさらに楽しく充実したものになったと思う。